

[成果情報名]赤紫色夏秋小ギク有望系統「4336」の開花特性

[要約]有望系統「4336」は自然開花期が6月下旬で、花色が赤紫の夏秋小ギクである。電照による5時間の暗期中断処理を行うと開花期を8月上旬に抑制でき、開花調節が可能である。

[キーワード]夏秋小ギク、赤紫色、電照栽培

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

[連絡先](代表)0957-26-3330

[区分]花き

[分類]指導

[作成年度]2018年度

[背景・ねらい]

本県では、露地で栽培でき、低コストに導入が可能な品目として、小ギクの作付け推進を図っているところである。しかし、需要期である8月盆出荷作型では、近年の異常高温により早期発蕾や開花遅延が発生し、計画的に出荷できないことが問題となっている。そのため、安定生産が可能な夏秋小ギク品種の選定が求められていた。

そこで、切り花品質や草姿に優れ、電照による開花調節が可能な品種を育成し、需要期に安定出荷ができる夏秋小ギクを育成する。

[成果の内容・特徴]

「4336」は、本センターで白色夏秋小ギク品種「はじめ」の自然交配により得られた実生から2014年度に選抜された系統であり、「長崎 SRC1」と比較すると以下の特性を有する。

1. 花色はやや薄い赤紫（RHS カラーチャート RED-PURPLE 70-A）である。
2. 自然日長下において、4月中旬に定植し、摘心後整枝（3本/株）を行うと50%開花日は6月21日であり、10日早い（表1）。
3. 4月中旬に定植し、定植～6月中旬まで電照による5時間の暗期中断処理を行うと、開花は8月上旬に抑制できる。消灯日からの到花日数は55日以内であり、約1週間短い（表1）。
4. 8月開花作型における切り花品質は、やや草丈が短く、80cm調整重が軽くなるが、県切り花標準出荷規格の最上位規格である切り花長80cm、80cm調整重50gを確保できる（表1）。
5. フラワーフォーメーションは、季咲き作型では2または3である（表1、図1）。また、8月開花作型では1であり、葉が立葉で小葉であるため、花束に加工する際処理しやすい形状である（表1、写真1）。
6. 切り花の先端から下方30cmより下に発生した花蕾のついた側枝（無効側枝）の発生が少なく、1本未満である（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 平成31年度の8月開花作型において、県内産地における現地試験を行う予定である。

[具体的データ]



写真1 各品種・系統の草姿（左：「長崎 SRC1」、右：「4336」）

表1 有望系統「4336」の開花特性

試験年度	品種・系統名	消灯時		収穫日	到花日数 (日間)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	葉数 (枚)	有効 ^z 枝数 (本)	無効 ^y 枝数 (本)	80cm ^x 調整重 (g)	花数 (個)	頂花径 (mm)	FF ^w
		草丈	節数											
2017	4336	-	-	6月21日	-	61.1	66.6	27.1	8.5	0.2	-	17.6	-	2or3
	長崎SRC1	-	-	7月1日	-	67.5	70.0	34.2	14.3	3.5	-	29.1	-	1or3
	4336	52.5	22.8	8月4日	52.0	113.1	79.1	60.4	14.5	0.2	50.0	16.8	38.9	1
2018	長崎SRC1	71.3	34.2	8月11日	59.0	119.4	113.2	64.3	14.6	2.2	63.4	27.4	27.4	1or3
	4336	71.3	34.3	8月4日	54.6	123.3	97.9	65.9	15.6	0.8	57.4	20.3	32.7	1
	長崎SRC1	79.3	34.4	8月10日	60.1	131.4	111.9	66.4	16.4	3.6	56.9	20.9	30.8	1

z) 切り花の先端から下方30cmまでに発生した花蕾のついた側枝
y) 切り花の先端から下方30cmより下に発生した花蕾のついた側枝
x) 切り花を長さ80cmに調整した後、有効側枝以外と下葉20cmを除去して測定
w) FF：フラワーフォーメーション（図1参照）

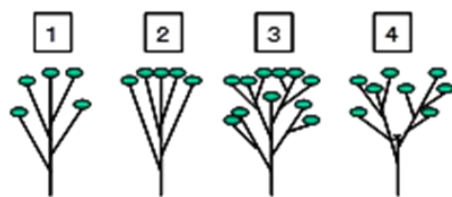


図1 小ギクのフラワーフォーメーション

※耕種概要

試験年度	作型	定植	摘心	消灯
2017	季咲き	4月12日	4月18日	-
	8月	4月19日	4月27日	6月13日
2018	8月	4月13日	4月20日	6月11日

注) 定植から消灯日まで、蛍光球（23W・23:00～4:00）により暗期中断を行った

[その他]

研究課題名：戦略的イノベーション創造プログラム（次世代農林水産業創造プログラム）
ゲノム育種技術等を用いた農水産物の画期的育種改良

予算区分：国庫

研究期間：2014～2018年度

研究担当者：久村麻子、竹邊丞市